

中齋塾 東京フォーラム
平成 26 年度 第 3 回講話

平成 26 年 3 月 8 日
於 湯島聖堂

前回の東京フォーラムは雪がすごくて大変でございました。でも雪が酷くても運がようございまして、2月の北関東フォーラムは大雪で一人しか会場に来られませんでした。前回の東京フォーラムは半分だけでも出来て良かったなと思います。

2月の大雪のとき、人間という動物は自分の目で見ないと信用しない性質があるなと実感しました。

それは何かと申しますと、私の関係している会社が郵便の仕事をしています。群馬県の山間部と平野部では、雪の様子がまるっきり違いました。前橋、高崎、富岡は比較的山に近いので腰まで雪が積りました。そうなりますと郵便の車はなかなか走りません。本社は前橋にあるのですが、雪がひどい人は家から 5 時間位かけて歩いて会社に来る。真面目だなと思います。会社の車を整備して、目の前の道路の雪を掻き分け出て 10 メートル進むのに半日かかった。車がまるで動かなく立ち往生していました。でも太田は、けっこう車は動いていました。なので平野部の郵便局は「なぜ来ない」という電話を何度も前橋にしていますが「こちらは雪に埋もれてしまって動けません」と、いくら言っても「同じ群馬県なのに何故動かない」と、分からないし通じません。「場所が違うと言っても、ほんのちょっと先ではないか、もっと山方面の沼田や水上など雪深いところなら、いざ知らず…」というような会話を延々としている。けっきょく信じなかったそうです。

今日、素読してもらった「聞（ぶん）」と「達（たつ）」ですが、一言で申せば有名人かどうかということです。

「聞」は、有名人でテレビに出てマスコミに乗っかり虚名を流しているから、人様に知られている。

「達」は、実力を磨きたいと思っている。実力を磨いた結果として、人様に知られるようになる。

聞と達は、まるっきり中身が違う。言い方を変えると、聞は目の前にあるものは信じるけれど、その奥の深いところにあるものは信じない。見えないものは信じない。先ほどの雪の話とそっくり同じです。目の前に雪がないところは信じるけれど、人様が言う雪が積もって身動きできないことは、自分で見てないから信じない。テレビは映すから、テレビの弊害でしょうね。目で見て何となく分かった気持ちになる。この間の雪でいろいろな人

間のものの言い方を感じさせられました。

この間の北関東フォーラムは早々に中止の連絡をしていただいて良かったなと思いました。でも中止という連絡がいても「俺は行く」という人がいたり、連絡が行き渡らないかもしれないから、誰か来るだろうなと思ひまして、来られたらお話をしようと思ひました。朝 5 時半から雪かきをして、何とか大通りに出て会場まで行きました。そうしましたら、やはり一人見えました。「すごい雪ですが、どうして来られたのですか」と聞きましたら「連絡もないし、やるかも知れない」と思って来たということです。その方は、パソコンは見ないし、何故か電話の連絡網から抜けていたので、連絡がなかったのであるだろうと思ひて来たそうです。でも、そのお陰でその方とゆっくりお話ができました。

紹介書籍

『盛大な人生』中村天風述 日本経営合理化協会出版局

『陽明学のすすめⅢ』深澤賢治著 明德出版社

『陽明学のすすめⅢ』表紙の盡己（じんこ）ですが、己を尽くすと書きます。佐藤一斎が山田方谷に贈った書です。

岡山理科大学付属高校の山田敦先生宛てに「山田家御所蔵の佐藤一斎先生書の「盡己」で表紙を飾らせていただくことをお許しいただきますこと、ご協力もったいなく存じます」と、中斎塾前事務局長の関根さんが書いた文章があります。

二松学舎の理事長をされた山田安之先生が序文を書いてくださっています。

「本著の表紙に載せられた「盡己」（わが誠心を尽くす）は、方谷が佐藤一斎に学び、その塾を去る際に贈られた書であり、その精神は方谷の生涯を通じた指針となり、今も山田家の家訓として引き継がれている」というものが盡己です。

最近、漢字が簡略化されています。盡己も尽己と書きます。今度の季刊誌・知足を御覧いただくと、忠久先生が日本の漢字文化について話をされています。日本民族は漢字をもっと尊重して勉強しましょうと話しておられました。

「おのれ」という字も、ちょっと変えただけで意味が変わります。己・巳・已、辞書でどうぞ調べてみてください。

尽己は誠心（せいしん）。わが誠心を尽くすと説明をしました。「誠」というのは、何かという話になります。新選組の旗はこの字を使いますね。それから吉田松陰が誠について話しています。死ぬ間際に楫取素彦に残したもので「至誠（しせい）にして動かざる者未だ之れ有らざるなし」という科白だったと思ひます。誠の心を持って人と接すれば、必ず相手は誠の心をもって動いてくれる。動かないということは聞いたことがない。

吉田松陰が黒船で密航しようとして計画をしていた時、誠心誠意をもって相手に説明をしたら、必ず乗せてくれるだろうと思いつつ失敗してもやむなしと行って行動した。そのベースはこの誠の心です。

他の「せい」でいきますと、中村天風先生の『盛大な人生』は「盛（せい）」を使っています。人と対するとき、誠と愛をもって人様とお付き合いをなさいといいます。天風先生が話したものが口述筆記して本になっています。その時の言い方としては、もっと砕いた言い方をして「情け深い気持ちになって人とあい接しなさい」というような説明です。情け深い気持ち、根っこにあるのは「誠」と「愛」です。

「せい」という文字は色々なところに使われています。湯島聖堂にも佐藤一斎の書が掛かっています。

佐藤一斎が「誠（せい）」という文字を説明しています。言志四録に「誠」は「無為にして有為なるものを誠という」と書いてあります。あと解説で良いなと思うものは、安岡正篤先生の説明です。「利害得失、打算、けちな欲望、そういうものを超越したところに無為というものがある」自分だけ儲けようと思うな。自分だけ儲けようと色々やると、それはどうやら自分に跳ねかってくる。お金を貸して返ってこなかったらスパッと諦めてしまうという部分が無為。利害・得失・打算を超越したところから、物事は始まります。利害・得失・打算を超越して行動を起こすと、結果として世の中の役に立つ有為なることを生み出すものです。

安岡正篤先生の説明ですと、大事なことをきびきびとした動きでさっさと処理をしていく。それは無為にして有為なるもの。誠のこころ、誠（せい）を貫かれていると感じます。

今回、「盡己」について質問がありましたので、ご説明致しました。どうぞ『陽明学のすすめⅢ』で、他に気になるところがありましたらお聞きください。ご説明申し上げます。言われないと表紙の説明はしなかったなと思います。

論語の視点

先ほど「聞」と「達」を申し上げましたので、追加でお話をします。

顔淵十二

【二〇】子張 問う。士 如何なるをか、斯れ之を達と謂うべきと。子曰く、何ぞや、爾の所謂達とはと。子張 対えて曰く、邦に在りても必ず聞え、家に在りても必ず聞ゆと。子曰く、是れ聞なり。達に非ざるなり。夫れ達なる者は、質 直にして義を好み、言を察して色を觀、慮りて以て人に下る。邦に在りても必ず達し、家に在りても必ず達す。夫れ聞なる者は、色 仁を取りて行 違ふ。之に居りて疑わず。邦に在りても必ず聞え、家に在りても必ず聞ゆと。

これは、今風に解釈をしたほうが良いと感じます。

子張が孔子に質問をしました。世の中の評判になっている者が色々いるけれども、どうすれば「達」といえますかと聞いたところ、孔子が反問をします。子張の考えている「達」は「聞」のことではないか。マスメディアに乗って聞かれていることを、どんどん答えていくような者を「達」と勘違いしているのではと感じて、「お前の言う「達」は、どういうものか」と聞きました。

子張は「国家に仕えているだけで評判になります。家にいるだけでも人さまの話題になります」ここら辺は色々解釈はありますが、家庭に奥さんがいて、ご近所から良い亭主と言われるし、親戚も言う。孔子が答えて、お前の言うそういうものは「聞」というもので「達」ではない。「達」は、真正直で人間としての道が好きな人。「言を察して色を觀」相手の言葉をよく理解して何を考えて言っているのか、腹の中まで洞察をし考えて相手のことを理解する。そして表情を見ながらも分かり、謙虚な姿勢で人さまに対応をする。「達」という人間が国家に仕えた場合は、必ず良い結果をもたらす、家においても同じようなことがいえるであろう。なかなか出来そうで出来ない話です。

「聞」は、虚偽・うそつきですから、逆のことばかりをしている。腹の中は違うけれども、表面的には情け深いし、思慮深い。周りからは素晴らしい人だなと見える。周りは「聞」と「達」を取り違えることが多い。

一言で申せば、「聞」は口先人間、嘘つき人間。その人間の言うことをずっと追いかけて調べていけば、一年の初めと終わりでは、だいぶ言い方が変わる。10年追っかけていくと正反対のことを言う。特に終戦直前後、表現や主張がころっと変わった人間がたくさんいましたから、その辺りを考えていくと良いという事が今日の論語素読の流れです。

(弁護士の会員さんに向かって) 仮に有名人が貴方のところへ相談をしに来たときに、相手は「聞」なのか「達」なのか、本音をよく見て、口先人間なのか嘘つき人間なのか、舌が二枚あるのか三枚か一枚なのかを見抜きながら対応をする。弁護士さんとしては、相手が本当のことを言わなければ、弁護は出来ませんね。だから相手の言っている時の表情をよく見る。これは貴方のために書かれた文章ですね。よくここを理解し飲み込んで何度も暗唱をすると良いです。暗唱をするぐらいこの文章を理解すると自分の人生、自分の仕事に役に立つ。そこから発して、論語を全部暗唱できれば、さらにたいしたものです。

石川梅次郎先生が、「学びたければ学んでいるもの一通り暗記してしまいなさい。論語を全部暗記してしまいなさい。そうすると色々な掛け軸を見ても、これはあそこに書いてあったと分かる。長く文字が書いてあっても、一文字分かれば後はだいたい検討がつくもんだ」と言われた記憶があります。どこかでこんな科白を見たなと思ったら、寺小屋サミットで送られた資料の中で、伊與田先生が「いろいろな古典を読む。そうすると、どこかで見た文章だなと思う。みな論語だと思った。私は論語を暗記しているので、中国の古典を読むとあちこちに引用されているので、非常に論語を暗記していると良い」というような

話をされたことが書いてありました。

一昔前の方は、だいたい暗記しておられる。暗記をしておく、色々なことに出ているものがスッと分かるし、掛け軸も分かる。全て暗記とは言いませんが、自分が素読をした部分だけでも暗記をしておく、仕事に役に立つと思いますよ。

さらに深く掘り下げますと、論語を現代に役立たせなければ、それは論語を活かしているとは申しません。中斎塾フォーラムは論語を現代に活かしている学問だという旗幟を鮮明にして、世の中に発表していく、普及させていくのが必要だと感じました。しかし学識経験者からみると私の論語の読み方は邪道です。それは渋沢栄一流になるから良くありませんということです。私は、渋沢栄一流は正しいと思っているので、そんな科白を聞くと逆に嬉しくなっていて、渋沢栄一のように現実世界で役立たせる論語の読み方がよろしいと思います。

現代の「聞」と「達」でいきますと、菅直人元総理大臣、そのあとの野田元総理大臣も「聞」だと思います。何故なら、菅さんは2011年6月24日復興基本法を公布しました。19兆円の復興予算を組む。初年度に8割がたを使ってよいという宣言をしました。青天井だったのは、その次の総理大臣です。でも民主党は19兆円の復興予算を作り、その財源として法人税もあげて、起債もしたし、住民税もあげた。とにかく税金を色々な形で少しずつ上乗せをして、所得税などは25年間2.1パーセント上げます。誰も反対はしなかった。復興させるから良いのではということです。私は日本の国が腐っている、根太が腐っているなどこの部分で感じました。

「聞」とは、最後の最後まで責任を持たない。言えば、言いつばなし。初年度19兆円のうち8割使ってよいと言っていたはずのものが、使われたのが6割。その60パーセントのうち、被災地・災害地に対して使われたのは、その中の16パーセントしか使われていなかった。その6割のうち残りほぼ100パーセントは全然関係ないところに使われていた。これは流用問題だということで、だいぶマスコミを騒がせました。私はその関係の部分を読んでびっくりしました。霞ヶ関の古くなった建物の改修は前から予定が組まれていたが後回しになっていました。でもこれから大地震が起きるかもしれないから危ないところは直しなさいと進めた。大地震・復興・地震対策・津波対策というキーワードが少しでも入ると何でもかんでも予算が認められてしまう。酷いところは、地方自治体で箱物を作ろうとしていたけれど、ずっとストップをかけられていた。そしたら今回、勝手に復興庁が復興に関係しているという文句を押し付けてきて予算がついた。でも自治体は「箱物の計画は、復興・東北に関係ない事業です」と言うが「いや、あなたのところには大地震が起きたら困るでしょう。だから復興または東北に何かを送るために必要だと思うキーワードに予算をつけます」と言う。「いや我々は、そういうことは考えておりません」と断ったら、勝手に予算をつけてきて「予算をつけたのですから、要らないとは言わないでください」と押し付けられて予算を使われた。それを週刊誌が叩いたら、自治体は釈明をしていました。

「我々は箱物の予算を前から組んでいて、後回しになっていたものを東日本大震災後、国が何でもよいから予算を使え、復興だというキーをつければ使ってもよいということで、週刊誌の言うような国の予算を騙し取ったということはありません。押し付けられた予算です。マスコミは間違えないで発表していただきたい」というやり取りがありました。これでこの国は根太が腐っていると感じました。被災地で実際に執行されたのは16パーセントでしょう。とんでもないと思います。

一昨日、前橋のノイエス朝日で私の知人が書道展の個展を開いたので行って来ました。久しぶりに会ってお喋りをしてきました。知人は群馬県では有名な本屋さんの常務をしていた方です。私はその本屋の屋号は、論語から取ったという話を聞いて、いろいろ調べていくうちに知り合いました。

その個展会場に行った時に感じたものは、死者の群れという書道展でした。生々しさ、死んだ人の怨念みたいなものが突き刺さってくる書道展でした。これは何だと思って本人に聞いたら、東日本大震災時に現地に行き…人が死んでいた。海の中に立ち木があって、その立ち木を必死に抱え込んで蟬の抜け殻のような形で、その人は凍死をしていた。そういうものを見させられた。ぐるぐる現地を周ってみると、あちこちに落ちているものが腕だとか胴体や足、首は見なかったようですが、自衛隊が地面を突き刺しながら歩いている。それを見たら何とも言えない。これは書道で表そうと決意をして3年掛かってやっと書いたということです。

私の知人も被災をして家が流されて無くなってしまったのですが、国から出てきたものは30万円だけでした。それでも家を再建しようと思ったら、国家が建物の予定を組んでいる土地だから、建ててはいけないと言われた。家を再建しようと思っても国からのお金は30万円だからどうにもならない。やっちはいけないと言われても自分の土地なのだからといって、小さいブルドーザーを借りて瓦礫を片付けて自力でやっている最中だと聞きました。どこをどう申請しても請求しても必ず規制があって、個人の希望は100パーセント近く拒否される。だから自前でやるしかない。被災地の声は一切届かない慨嘆したと言っておりました。そうだろうなと思いました。

その知人と被災地は本当にお金が回っていないという話になり、私の体験した話をして白熱しました。そういうことを聞いてつくづく思うことは、政治家も官僚も最後まで責任を持たないから、この国の根太は腐っている。最後まで責任を持とうとすれば現地に行つて、現地がどうなっているかを見に行くと思います。そこら辺が「聞」なのか「達」なのかの、分かれ道になる気がします。

テーマ

「人間は何事も自分の考えたとおりになる。自分が自分に与えた暗示の通りになる」と

いう文章と基本哲学の知足は、みな直結をいたしますので、一緒にご説明を申し上げます。

人間は全部自分の考えた通りになるという考え方は、唯識学です。阿頼耶識という考え方があります。自分が考えた通りとは、自分が口に出したのではなくて腹で思ったものです。思ったものが形になる。だんだん芽が出てきて花が開いていく。

天風先生の『盛大な人生』6 ページに、「この世の中には、本当らしい嘘もあると同時に、嘘らしい本当があるのと同じように、できそうで絶対できないことと、できなさそうでできることという、二つの種類があります。」

非常に分かりやすい書き方をしている。これは何をいっているかという、「欲を捨てなさい」ということです。古来、偉人や聖人は捨欲を言っているけれど、こんなこと嘘ばちで出来るわけがない。お釈迦様も悟りたいと思ったが、それも欲ではないか。古今東西「欲を捨てる」という嘘を聖人君子がつくからいけないのだと天風先生はよく言い切っているものだと思います。

欲も天風先生に言わせれば、楽しい欲と気持ちが清々しくなる欲がある。欲に従って行動していて、それなりの結果が出た。良い欲は清々しい気持ちになる、楽しくなるのでは。ところが辛い思いになる欲とか、苦しい欲、耐え難い欲、あまり良いものではない。そうすると知足「足るを知る」という考え方と、その辺りの考え方が直結しているなど読んでいて感じます。

気持ちが清々しくなる。気持ちが良くなるという欲は何かと言えば、最近私が思うものでは、あるがままの現状を淡々と受け入れる。なかなか満足はできないけれど、今、私の心の中にある「あるがまま」を淡々と受け入れようと努力をする。どうしても今は娘が亡くなったばかりですので、現状に満足しているかといえば、全然満足はできない。ただ亡くなったという事実を淡々とあるがままに受け入れようという気持ちにはなっていますので、知足とは、なかなか奥の深い科白だと思います。辛いし重いし苦しい悲しいし切ないということ全部抱合し淡々と受け入れようという気持ちにはさせてくれる。

荘子の「将（おく）らず迎えず応じて蔵せず」という言葉があります。

過去のことは、淡々と受け入れて過ぎ去っていくものだと、後に引きずらないようにしましょう。迎えずは、これから起きるものを取り越し苦勞しなさんな。これからとんでもないことが起きそうだからと用意するのは良いけれども、余計な取りこし苦勞はしない。応じて蔵せずは、現状あるがままを淡々と受け入れて、淡々と処理をして腹に一物も残さない。

「将らず迎えず応じて蔵せず」は「足るを知る」と同じです。天風先生の言われる捨欲の中、これはできないのだから清々しい気持ちで欲を捉えましょうと受け止めれば、みな繋がったぞと感じています。

「足るを知る」をよく考えるために、来月から講座を 1 つ作ろうと考えました。中齋塾

フォーラムの中で学んだ方が外で話をされる。そうすると、素人でよく論語を広めましようとおこがましくもやれるものだなと言われてしまうことがある。どこで勉強をしたのですかと聞かれて「中齋塾フォーラムで勉強をしました」と言われるのは、かなわないという思いがありました。私から見ると、ある人は論語を学ぼうという入り口に立とうとしたところで卒業をしてしまった。「その部分だけ暗記しました」といえば、入り口に立ったのですが「暗記をしようと思います」と言うことは、まだ入り口に立ったとはいえない。暗記したと言え、それをスラッと説明できるし、状況も浮かんでくる。その部分だけでいけば先生たちと話していても、その部分だけに関してはできる。学者は枠の中で勉強して深く掘り下げるから、その部分では詳しい。学者はその中の領域では深いから、いかにようにでもできる。

中齋塾フォーラムを代表して外に出かけて行って講演をしていただいても大丈夫だと太鼓判を押すのに、早ければ1年ぐらいで合格としたいし、時間がかかっても2年からもしくは3年で合格としたい。会員さんでモンゴルへ行ってお話をされる。これについては早く資格付けをしないといけないなと思っています。講座に出て欲しいと思う人選は、理事長と相談しましたので、理事長から発表していただく事になると思います。どうぞ指名がございましたら一緒に学びを深くしたいと思います。

新規講座の中身は唯識学、木内信胤学、陽明学、学問でいけばそういう学問を掘り下げても、そろそろ良い時期だと思います。出だしは論語のどこか自分が気に入ったところを暗記して、前に出てお話をしていただくところからスタートになると思います。根っこはだいたい唯識学になると思います。みな繋がっています。

時事評論

領土問題がテーマだなという気がしています。今日、昨日の新聞を見たらロシアが領土の侵犯を始めている。根っこは何かと思うときのベースは判断の三原則にしてください。本質から見る・大局から見る・歴史から見る。本質・大局・歴史の視点で分析をしていけば間違いはないと思います。

昨夜泊まったホテルが、朝日新聞を無料で配布しているので、それを読んでおります。

朝日新聞3月7日（金）で、一面に出ていたのはアメリカ、ロシアに制裁。資産凍結・ビザ発給禁止という記事がありました。その隣の記事が、国民健康保険の保険料を滞納している人を差し押さえ。5年で倍になった。その下の記事は、震災関連で亡くなった方が2973名。福島で直接死亡した人数を超したとあります。

この3つだけ眺めると「アメリカがロシアに制裁を加えた」これは何を言っているの

か。本質から見れば、アメリカが弱った。アメリカが弱ってきて世界の警察官になれなくなった。オバマさんは自分の国の中、自分の足元が揺らいでいるから外まで関わり合いができませんと、何度も大きな声で話をするようになった。

それを見て中国が他国の領土を分捕る良いチャンスだから、日本にも手を出してきた。アメリカの力が弱くなってきたが為に、中国が野心を燃やし動きだしてきた。中国は勝手に制空権の範囲を決めて、範囲を守らない飛行機は打ち落とすぞと恫喝を始めた。昔、ロシアがやっていたなと思い出します。アメリカの力が弱ったが為に中国が領土問題に野心を燃やした。そしたらロシアも領土問題に野心を燃やして動き始める。ロシアはその国の人達がロシアと一緒にになりたいと言っているから応援して差し上げていると、正義は我にありというようなことをやったけれども、あまりにも見え透いているので、アメリカが及び腰で後手に回りながら、制裁を恐る恐る始めましたという記事です。そこから見えてくる本質は、文明終結という具体的なものが出てきたと感じます。

木内信胤先生が、以前アメリカはビックリするぐらいの勢いで坂を転げ落ちます、と言われたことが現実になってきているとここから見えます。

「国保の差し押さえ急増」これは酷い。国民健康保険料を払えないから、無理やり払わせるし、差し押さえをする。国民健康保険加入者の中で無職の高齢者である非正規労働者が8割いる。その人たちの年間所得100万円未満が半分を占めている。差し押さえをする時に払えるか、払えないかを調べないで国が差し押さえろうと言ったものだから、各自治体が一気にどんどん差し押さえた数24万件。5年で倍になりましたという記事があります。

これは何か。国家が国家としての体を成さなくなっている。本質・大局・歴史の歴史的に眺めてみましょう。

歴史の部分で論語の視点でいけば、孔子が山道を歩いていたら老婆が涙を流している。「どうしたのか」と聞く。「亭主が虎に食われて死んだ。息子も虎に食われて死んだ」と言う。「お婆さん、こんな物騒な土地にいないで他所の土地に行ったほうがよいのでは？」と言うと「いいえ、ここは税金が安いからいるのです」と答えました。

最近の話でいくと山田方谷。岡山県で昔、百姓一揆がありました。むしろ旗をおし立てて豪農や金持ちのところに百姓一揆の人たちが押し寄せて行った。たんすや長持ちのところに「山田方谷先生」という文字の張り紙があったら、これは方谷先生・生神様のだから手をつけてはいけない。事実、手をつけないで一揆の人々は去っていった。これは歴史の話だと、捉えてください。

大局は、いろいろな立場でものを見る。大局で最近それに似た話を探してみるとロシアです。ソ連からロシアに変わった時、経済が破綻をしました。経済が破綻をする前にモスクワの市民は、モスクワ市が土地を欲しい人は申請しなさいと言われ、土地を貰った人達はじゃがいもを作って生き延びた。ハイパーインフレが発生した時に、あっという間に飲み物1本100円が翌日200円、300円に跳ね上がって、気がついたら1本100円の飲み物

が 1000 円 10000 円になっている。

ハイパーインフレの中で、ロシアでその当時生き残った人達は食べ物を買えないから、自分でジャガイモを作って隣近所、親戚に分けそれで生き延びた人。あとは政治家、官僚でかなりの金を持って外へお金を出して、またそれを持って帰ってくることが出来た人達が生き延びました。それから若い女の子を家族に持っている家庭は、娘が身売りをし世界の風俗界にロシアの女の子が溢れた。風俗街で働いて家族に金を送りそれで生き延びた。

ロシアの大学教授と話をしたら「私は 3 つ職業を持ってなんとか食べています。大学教授と通訳とタクシードライバーで食べています」と言いました。放送局に勤めている人に聞いたら、他にも事務をやっていて、やはり 3 つぐらい仕事を掛け持ちしていると言います。

私がこのような話をしているのは全部現地に行って調べています。経済破綻を起こした国々、かなりの国々を回って自分の目で見て聞いて体験した話をしています。

色々な手立てを持っていない人は、娘さんが身売りをして家族を養ったなどは現地で聞かないと本当だとは思えません。つい最近の出来事です。あの時、餓死した人は、マスコミが出さないけれどもロシアで 2 千万人ぐらいは亡くなっていると感じます。現地での発表は一切ないけれども、日本に戻って色々な資料と人口動態統計や学者と話して推測すると、それぐらいの人数は亡くなっていると思います。

ちなみに毛沢東が「我が国は人民の数が多いので 1 千万人ぐらい死んでもどうということはない」と言ったという話もありますが、あまり世には出ていません。しかし、知る人ぞ知るという科白です。

大局は色々な立場で変えてみる

国民健康保険料の滞納・差し押さえ急増も、これは何なんだろうと考えてみると、国の根が腐っているぞ。苦しいと言う人に、なぜ手を差し伸べないのか。日本の国は働けば働くほど損をする仕組みになっていると思います。

生活保護を受けている人は自分で働くと働いた分カットされます。年金を貰っている人は年金以外の収入があると年金が減らされます。おかしいと思います。

今ちらちらと富裕税という話が出ています。富裕税は終戦直後 9 割の税金を掛けられた人達がいたと知ってください。例えばお金持で、当時 1 億円の財産があった人は 9 千万円の税金を無理やり取られたのだと考えてください。つい 60 数年前の出来事を日本人は忘れてるから、調べてみるとよいでしょう。

日本の国でどういう事が行われていたかという歴史を調べておく必要がある。他の国で同じようなものが、どうあったかを調べても良いでしょう。

先ほど話しました山田方谷もそうですし、木内信胤先生も同じことを言っておられています。税収が足りない時には、必ず減税をするべきである。増税をしてはいけない。増税は国が減びると歴史が物語っているのだから、国の税金が足りなくなったら、必ず減税を

するべきである。現在の日本は、なぜ逆をやっているのかということが、この国民皆保険という部分から見えてくる。

アベノミクスは好景気を演出しています。演出をされている好景気ですから、大企業に勤めている人は確にお給料は上がるでしょう。

連合は今回の春闘でアップというけれど「非正社員、ベア別世界」3月8日の朝日新聞で、「労働組合は非正規には冷たいから入っても損だ」と言われたと書いてあります。今、非正規社員の数が約2000万人。労働者全体の約4割。その4割の人達は、恩恵は振りませんと書いてある。

安倍さんが、どこかで演説している記事がありました。「中小零細まで賃上げが行き渡らなければ、アベノミクスは失敗であると私は認識しております。だから皆さん上げてください、上げるための手は打ってあります」と言いますが、政治家の限界がそこに出ているなと思います。

政治家の限界、先ほど申し上げました19兆円の復興予算が3・11のときに組まれて、初年度8割使ってよいと言ったものが、執行率が6割。しかも被災地に使われたものは、その内の16パーセントしかない。その他は被災地にまるで関係ないところで使われていた。これは流用です。流用も、あちこちにたくさんあります。何故そうなったか。政治家・官僚、自分の小さい枠の中、小さい世界の中で良かれと思うことをやる。全体に良いと思うことをやらない。

日本の国家は落ちるべくして落ちている最中なので、安倍さんがいくら何をしても落ちる仕組みのときにきているのだから、落ちざるを得ないと思います。

お医者さんと色々お喋りしました。東北でこのような問題が起きたとき、私は陽明学を学んでいますから、すぐ現地に行き車でいろいろと回りました。現地では、無残。見るに耐えない光景が広がっていました。

その時の世間は、日赤等に寄付をすべきだと、寄付をする人は良い人だという論調でしたが、私は日赤に寄付をするつもりはさらさらありませんでした。

現地に行って困っている自治体を見て、本当に一所懸命再生をしたいという所に行きそれぞれの自治体に寄付をさせていただきました。日赤に寄付をしたら人件費で消えてしまうといいます。ユニセフも同様だと思っています。今、本当に困っているところに行ってお出すべきだと感じます。

中斎塾幹事の竹岡さん達が、東北にある学校の生徒さんたちと現地を回って被災者に話を聞いたら、あの震災直後は寒い。寝袋が欲しいと言われたので、必死になって寝袋をかき集めて届けたといいます。

本当に必要としている物は、現地に行って困っている人達の話聞き、即座に届けるべきだと思います。人様まかせにするのであれば、最後の最後まで見続けるべきです。金を

送ったらこれで良しとするものではありません。こういう結果、震災関連死 2973 名です。

この国の根太が腐っているところは、ケアができない。東北大学の先生が話していましたが、学生がボランティアで現地に入ったけれど、大学としては何も出来なかった。学生が 1 千人ぐらいでボランティア活動を行ったけれど心を病んでしまった。手足が転がっている中、心を病んでしまうのは当たり前でしょう。自衛隊も隊員ケア専門のチームが回っていたけれど 2 名の自殺者をだしてしまったと、シンポジウムで話していましたが、なかなかマスメディアには出てこない。その後聞きましたら、震災 1 年後で学生が 7 名自殺をしてしまった。その後のケアが大変。死なないまでも心にトラウマをもった学生が山ほどいる。自衛隊も同じです。そういうことを何故ださないのか。関連死をしている人達がこれだけいると、この 1 つの記事から見えてきます。

「日本、対露制裁明言せず」これも当たり前で、今おかれている日本の外交のやり方は実に下手なものだから、北朝鮮と中国とロシアと韓国と台湾にも包囲網を持たれている。ロシアと今、遠近外交をしているわけです。

アメリカが頼りにならないから、ロシアと少しパイプを作ろうとしているのでロシアを叩くことは出来ないわけです。だから「明言せず」は当たり前だと思います。これはアベノミクスが限界を見せてきていると感じるものです。

それから「社会に復讐する」という記事。これは柏市で起きた連続殺傷事件。

ここら辺も文明の終わりを感じます。インディオの話を一聞したのですがけれども、日本では子供が親を殺し、親が子供を殺すということが行われていることをインディオの長老に話しをしたら、「そんな馬鹿なことはあり得ない。もしもそれが本当だったら、その民族は滅ぶ」という話をしたそうです。

親殺し、子殺しが当たり前であり無差別に殺戮するのは、その民族が滅ぶ兆候であるといえます。

最近インターネットでしょうか。インターネットは早いですね。ネットの後を追いかけて新聞が出てくるから、新聞はもう役割を終えつつと感じます。もう少し分析したり時代背景を出したりすべきだなと、新聞を見て思います。やはりネットのほうが遥かに早い。遥かに早いけれども、情報を自分のところで受け止めて聞き流すだけでは良くないので、くれぐれも判断基準をお持ちになるようお勧めします。

1 つの判断基準が必要です。また安岡正篤先生の物の考え方の判断基準をお取りになっても良いでしょう。御自分の判断基準をお持ちになる必要がある。そして陽明学で行動を重視し、論語を読んで、論語の中から現代に相通じるものを発見していくことをお勧めいたします。

ある程度の年齢になったら、「三かく」と「カキクケコ」が良いと何回かお勧めしています。最近、私の頭の中でよく繰り返しています。

三かく

ご年配の方は、どうぞ汗かく、恥じかく、物を書く。

「汗かく」…少し動きましょう、汗をかきましょうという事です。労働しましょうという事でしょうね。家庭菜園でも何でも良いと思います。

「恥かく」…知らないことに挑戦しましょう。知らない事を聞くと恥をかきますから、恥をかくのは良いことだという事です。

「物を書く」…忘れますから物を書いていく。何かちょっとメモをとる。これを御自分の中でされると良いでしょう。

汗をかいて、恥をかいて、物を書く。

カ・キ・ク・ケ・コ

「カ」…日々感動。感動する心を常に持ちましょう。周りを見ていると、感動する心があれば何を見てもはっと思える。聖堂の中を歩いて花が咲いていて良いなと思う。1つの花を見ても感動する心を持っていれば、瑞々しい心がまだ生きづいていてという事です。

「キ」…興味、好奇心。何を見ても好奇心を持つ。比田井副理事長は、好奇心旺盛ですね。

「ク」…工夫。日々の工夫。私は起きた時に真向法と他の運動をやる中で、少しずつ工夫しながら健康法をしています。

「ケ」…健康。健康を維持しましょう。

「コ」…恋人、恋心。恋人を持ちましょう。恋人を持たないときは、恋心を持つと良いでしょう。

以上で終了にいたします。有難うございました。